

第1章 序 論

1 - 1 調査目的

国土交通省では、バス交通再生プロジェクトを重点施策（平成 16 年 7 月）として掲げており、その一環としてバスロケーションシステムの導入拡大を図るため、バスロケーション情報に関する標準の策定に関する検討を進めている。これまでも、平成 13 年度に、「公共交通情報の提供促進のためのデータ標準化等に関する調査」を実施し、その検討成果として、公共交通情報の中でも固定情報を対象とした「公共交通情報データ標準(XML1.0 版)」を策定している。

本調査では、標準データフォーマットに準拠して行われる一般路線バスロケーションシステムの実証実験（以下「一般路線バスロケ実証実験」という。）の実施等を行った上で、既存のバスロケーションシステムとの整合、他モード・多メディアとの連携等を考慮に入れたバスのリアルタイム位置情報等のバスロケ情報に対応したバス総合情報システムに必要な標準データフォーマットとして、「公共交通情報データ標準」の策定を行うとともに、その普及方策の検討を行うことを目的とする。

1 - 2 調査内容

(1) 調査の実施方針

本調査を実施する上での実施方針を以下に示す。

バス総合情報システムに必要な標準データフォーマットの策定に当たっては、「バス総合情報システムに必要な標準データフォーマットに関する検討委員会」を設置し、検討委員会での議論を踏まえたとりまとめを行う。

標準の策定にあたっては、他モード・多メディアとの連携等を十分に留意したものと
する。

全国で別途実施される高速バスロケーションシステムの実証実験（以下、「高速バスロケ実証実験」という。）において、標準データフォーマットを活用したデータ交換の円滑化を支援することを目的に、情報交換の場として「高速バスロケ情報連絡会」を開催し、ここでの意見を反映させる。

標準データフォーマットを用いて、複数バス事業者のバスのリアルタイム運行情報をひとつのサイトで確認できることを検証するために、福岡市内の複数の路線バス事業者の路線と複数の高速バス事業者が共同運行する路線を対象とする、一般路線バスロケ実証実験を実施する。なお、実証実験の計画・実施及び評価については検討委員会とは独立して実施し、実験結果を検討委員会に報告することにより、標準データフォーマットの策定に反映させる。

CSV 形式のリアルタイム運行情報データを標準データフォーマットへ変換するツールを作成する。

本調査にて策定する公共交通情報データ標準の普及促進のための啓発活動として、バス事業者やバスロケーションメーカー向けのわかりやすいパンフレットや HP コンテンツを作成する。

(2) 調査の実施内容

1) 調査項目

本調査の調査項目及び調査フローを以下に示す。

バス総合情報システムに必要な標準データフォーマットの策定

- a)バス総合情報システムに必要な標準データフォーマットの課題整理
- b)他モードとの連携に関する検討
- c)道路管理高度化に関する検討(高速バスロケ実証実験との連携)
- d)バス総合情報システムに必要な標準データフォーマットの策定

一般路線バスロケ実証実験の実施

- a)実証実験の概要
- b)実証実験の評価

標準データフォーマットの普及方策の検討

- a)啓発活動の実施
- b)変換ツールの整備
- c)今後の課題

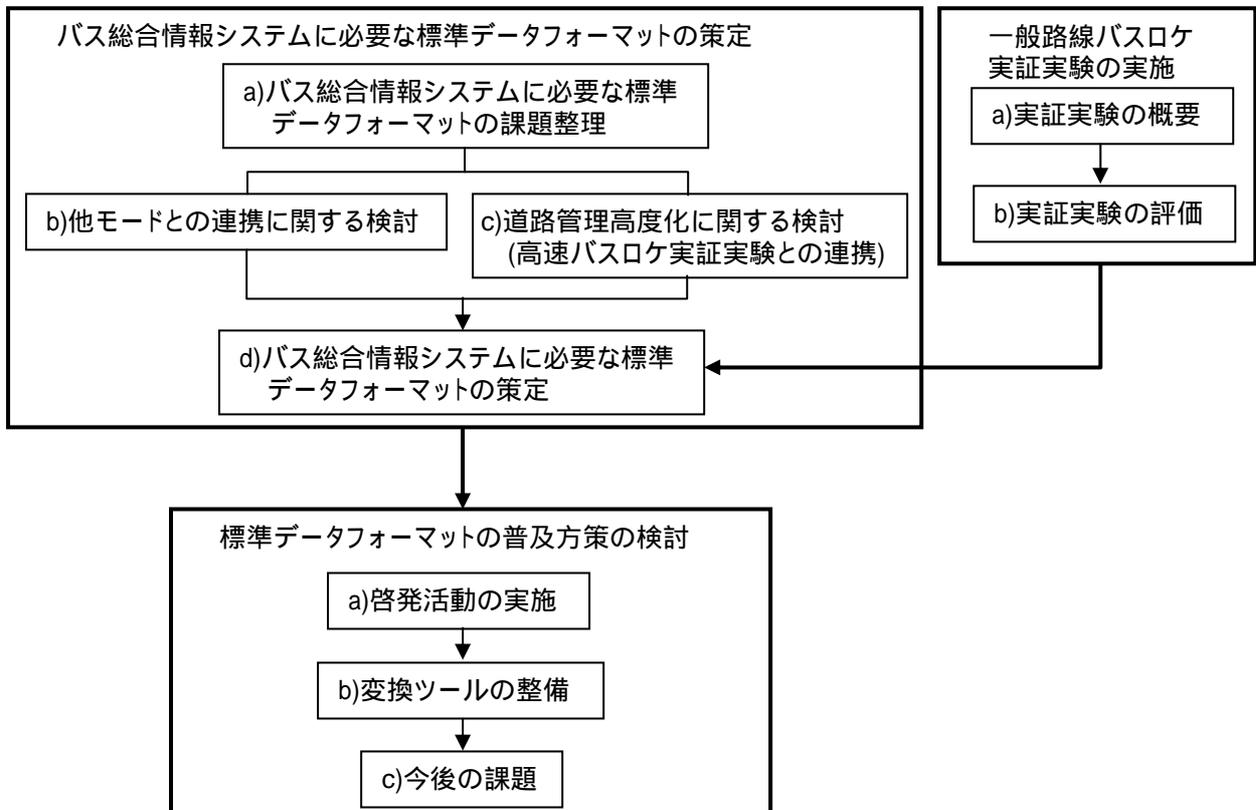


図1 - 1 調査フロー

2) 調査内容

バス総合情報システムに必要な標準データフォーマットの策定

「公共交通情報データ標準(XML1.0 版)」に基づき、検討課題を整理・解決することにより、リアルタイム情報にも対応したバス総合情報システムに必要な標準データフォーマットとして、「公共交通情報データ標準」の策定を行った。

a) バス総合情報システムに必要な標準データフォーマットの課題整理

本調査にて設置する作業部会(注:6 頁参照)に参加するバスロケーションメーカ等にヒアリングを行い、平成 16 年度に策定した、「バスロケーションシステムの標準データフォーマット案」に関するバスロケーションサービスを実施する上での課題について整理・検討を行った。

b) 他モードとの連携に関する検討

バスとの乗り継ぎが頻繁に発生する鉄道を中心とし、航空機、フェリー等の他モードとの情報提供面での連携のあり方について検討を行った。

具体的には、システムメーカや運輸事業者等への、ヒアリングにより、既存の他モード間での乗継案内システムの概要を把握し、情報提供に必要となる情報項目の明確化を行った。

c) 道路管理高度化に関する検討(高速バスロケ実証実験との連携)

道路管理者の意向に基づき、道路管理の高度化に資するバスロケーション情報(プローブデータ)について、その必要要件の明確化を行い、標準データフォーマットとの整合性について確認を行った。なお、検討に当たっては、全国で別途実施される高速バスロケ実証実験との連携を図る場として「高速バスロケ情報連絡会」を設置し、道路管理高度化に資する標準データフォーマットのあり方について確認を行った。

d) バス総合情報システムに必要な標準データフォーマットの策定

上記検討および後述する実証実験の結果を踏まえ、リアルタイム情報にも対応したバス総合情報システムに必要な標準データフォーマットとして「公共交通情報データ標準」を策定した。

一般路線バスロケ実証実験の実施

リアルタイム情報への適応性を検証する事を目的に、複数のバス事業者を対象に、情報提供に関する実証実験「一般路線バスロケ実証実験」を実施した。実証実験の結果については、利用者評価、事業者評価等を行い、標準データフォーマット策定に向けフィードバックを行うと共に、普及方策検討のための基礎資料として整理した(実証実験については、

「第3章 一般路線バスロケ実証実験の実施」を参照)。

a) 実証実験の概要

実証実験実施地区、協力バス事業者、実施スケジュール、実施内容等の検討を行い、一般路線バスロケ実証実験の実施を行った。

b) 実証実験の評価

実証実験の評価方法の検討を行うと共に、検討結果に従い、実証実験の評価を行った。

標準データフォーマットの普及方策

標準データフォーマットを普及させるための方策として、各種 PR 方法、支援ツールの開発等について検討を行った。

a) 啓発活動の実施

標準データフォーマットを普及させるためには、バス事業者への認知度をあげ、その有用性の理解を得ることが必要である。そこで、バス事業者やバスロケーションメーカを主たる対象として、標準データフォーマットとその有用性についてわかりやすくまとめたパンフレットやHPコンテンツの作成について検討を行った。

b) 変換ツールの整備

標準データフォーマットの適用の障壁を下げるため、CSV形式のリアルタイム情報を標準データフォーマットへ変換するツールの作成について検討を行った。

C) 今後の課題

標準データフォーマットを普及促進させるための今後の課題を整理した。

(3) 調査の実施体制

調査の実施体制としては、検討委員会の下に、バスロケーションメーカ及び情報プロバイダより構成される作業部会を設置し、調査に必要な技術的検討を行った。

また、高速バスロケーションシステムの推進に関し、標準データフォーマットに準拠して行われる高速バスロケ実証実験のシステム相互間のデータ交換が円滑に行われるよう、標準データフォーマットに関する説明、データ整備手法等について高速バスロケーションシステムを整備するグループ間との情報交換の場として「高速バスロケ情報連絡会」を設け検討を行った。

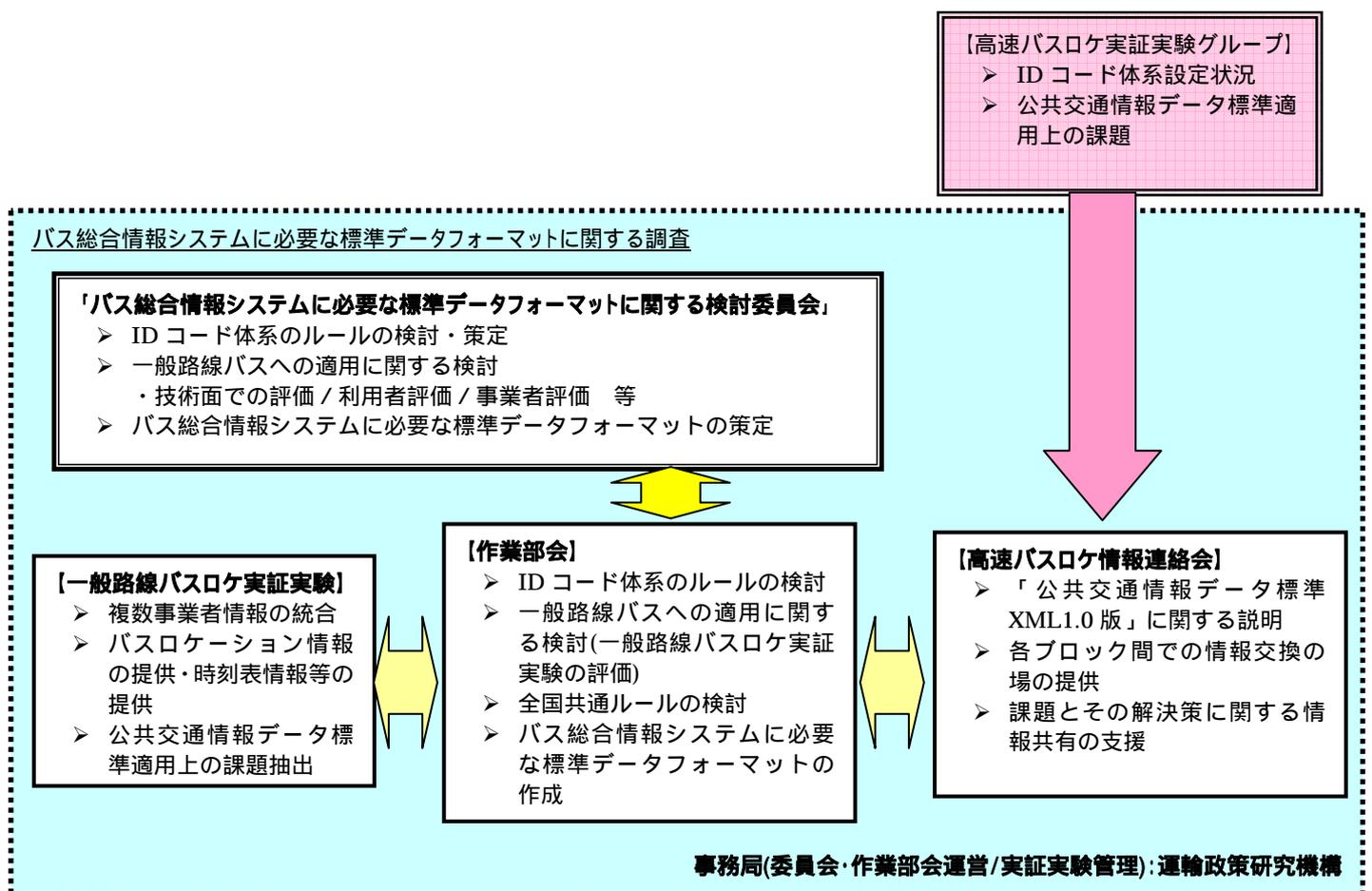


図1 - 2 調査実施体制